

2024年度 特別プログラム 活動報告

「オープンイノベーション体感・考動トライアル」

2025年2月18日(火)

(主催)BIPROGY株式会社

(共催)BIPROGYグループ

(共催)BIPROGY研究会関東支部、関西支部、北陸地区支部、九州・沖縄支部



BIPROGY

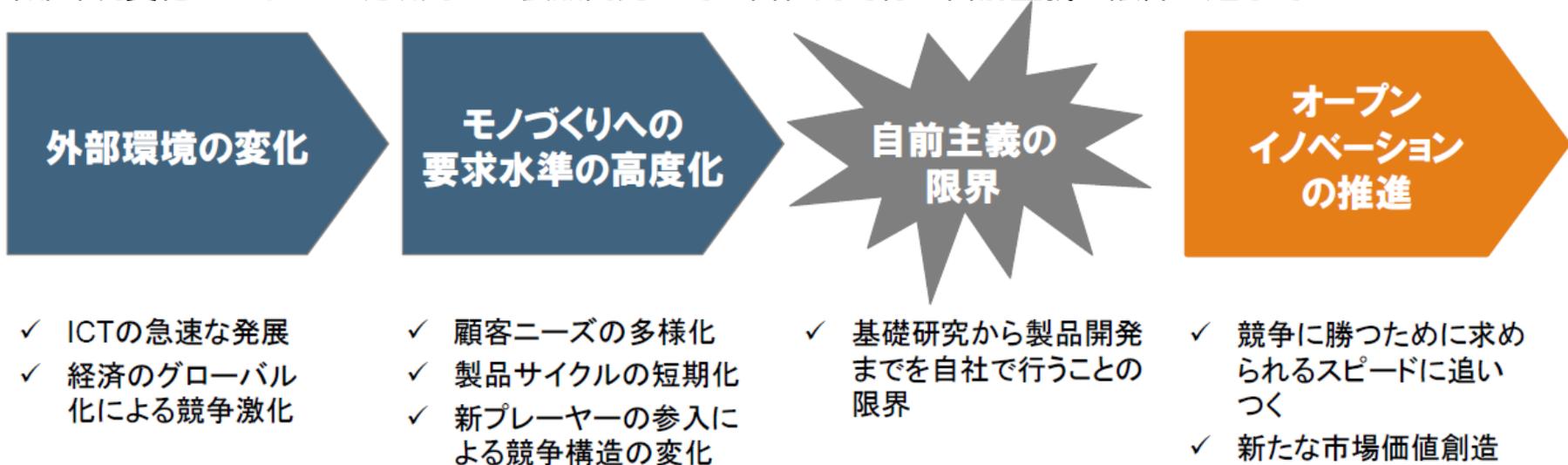
Foresight in sight

目次

項目	ページ
(1)オープンイノベーション（OI）が求められる背景	2
(2)オープンイノベーションとは？	3
(3)今後のオープンイノベーションで目指すもの	4
(4) OI推進の参考フロー	5
(5)特別プログラムの目指すところ・概要	6
(6)特別プログラム（オープンイノベーション）活動スケジュール	7
(7)特別プログラム参加企業様	8
(8)タスク（始動式～OI型の事業創出のアイデア出し）	9-18
(9)参加メンバーのアンケート・到達点	19

(1)オープンイノベーション（OI）が求められる背景

外部環境変化により、基礎研究から製品開発までを自社内で行う自前主義が限界に達してきた。



【出典】 文部科学省平成29年度(2017)科学技術白書オープンイノベーションの加速～産学官共創によるイノベーションの持続的な創出に向けて～

(2)オープンイノベーションとは？

【オープンイノベーションの定義】

研究開発においては常に「競争に勝つために達成すべきレベル」と「自社で達成できるレベル」の間に乗り越えなければならないギャップが生じている。以前であればそのギャップを埋めるために自社のみで努力することが一般的な姿勢であったが、昨今、求められるレベルが高まり、達成するまでに許される時間が短縮しているため、そのギャップを埋めるためには「既存のネットワークの外の技術を活用する」という発想に変わってきている。自動車を例に挙げると、自動車会社はこれまでガソリンエンジンとディーゼルエンジンを主として製造販売していた。しかし、ハイブリッド自動車や電気自動車、燃料電池自動車のような新しいタイプの自動車が次々と市場に投入され、かつ、それぞれが激しいグローバル競争にさらされている。結果として、「達成すべきレベル」が急激に多様化、高度化している。当然ながら、自動車のタイプごとに新しい材料や技術が必要となり、全てをこれまでの自前主義の体制で手掛けることはほぼ不可能である。一方で、そのような社会の変化に合わせて社内リソースを増やすことは容易ではなく、「達成すべきレベル」と「自社で達成できるレベル」とのギャップが拡大する一方である。それを埋めるために、自らが持っていない技術を探し出す、または、提供される技術を活用する、という考え方が自然に生まれてきた（※7）。

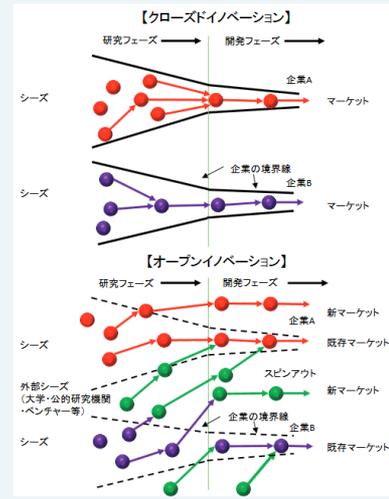
このような、自社以外の技術を活用するという考え方は、ヘンリー・チェスブロウによって、著書の中で「オープンイノベーション」と定義されている（※8）（※9）。

※7 星野達也「オープンイノベーションの教科書」ダイヤモンド社 平成27年

※8 特許庁、(社団法人)発明協会アジア太平洋工業所有権センター「オープンイノベーションと知的財産」(平成22年)

※9 Henry Chesbrough、大前恵一朗訳「OPEN INNOVATION ハーバード流イノベーション戦略のすべて」産業能率大学出版部 平成16年、Henry Chesbrough、栗原潔訳「オープンビジネスモデル」翔泳社 平成19年
Henry Chesbrough他、長尾高弘訳「オープンイノベーション」英治出版 平成20年

■第1-1-1図/クローズドイノベーションとオープンイノベーションの概念図



資料：「OPEN INNOVATION ハーバード流イノベーション戦略のすべて」(Henry Chesbrough著、大前恵一朗訳)を基に文部科学省作成

【出典】文部科学省 平成29年(2017)版科学技術白書 第1部 第1章 なぜ今、オープンイノベーションなのか
https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11293659/www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpaa201701/detail/1388436.htm

(3)今後のオープンイノベーションで目指すもの

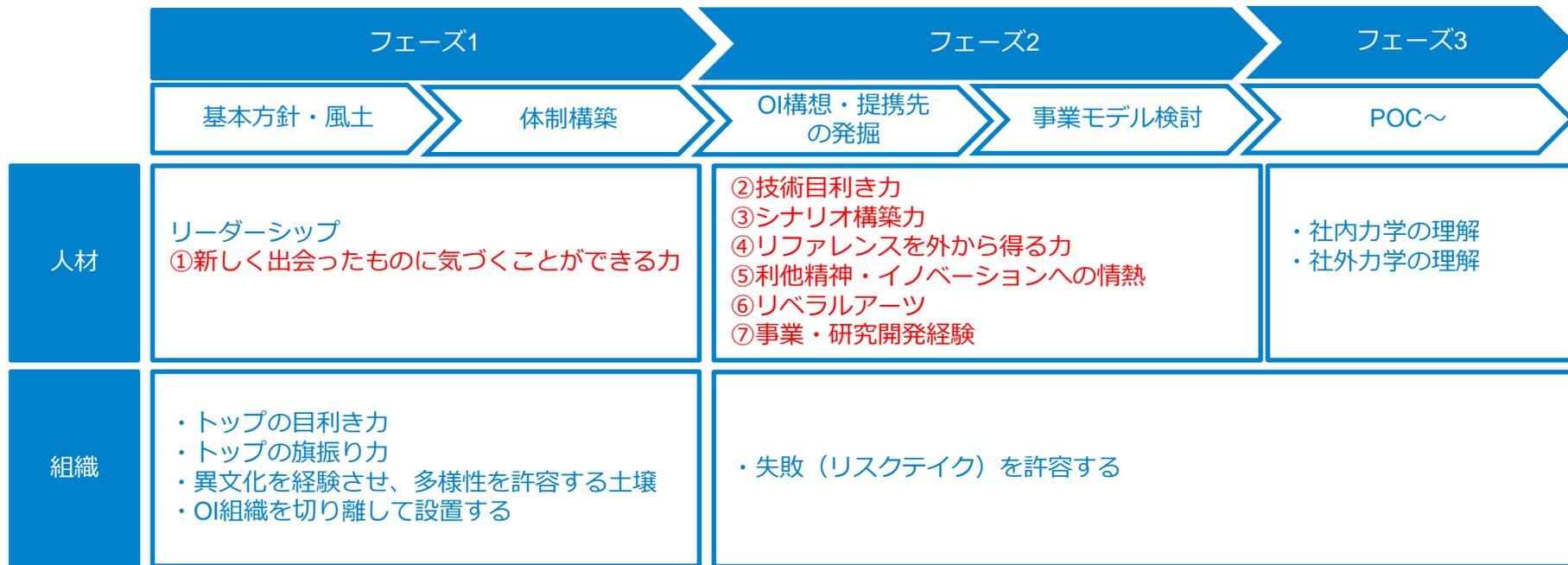
オープンイノベーション1.0と2.0の比較

要因	オープンイノベーション1.0	オープンイノベーション2.0
目的	<ul style="list-style-type: none">・研究開発効率の向上・新規事業の創出	<ul style="list-style-type: none">・社会的な共通課題の解決
連携	<ul style="list-style-type: none">・1対1の関係性	<ul style="list-style-type: none">・エコシステム 企業、大学。研究機関、政府・自治体、市民・ユーザーなど多様な関係者が多層的に連携・共創し合う環境体制
主導	<ul style="list-style-type: none">・企業	<ul style="list-style-type: none">・市民・ユーザ
特徴	<ul style="list-style-type: none">・市民・ユーザはオープンイノベーションプロセスには参加しない・Win-Winの関係の構築・民間企業主導であるため、互いに利害関係を満たすWin-Winとなる必要がある	<ul style="list-style-type: none">・市民参画型、共創性 市民・ユーザもプロセスのなかに巻き込み、ともにイノベーションを創り出す・オーケストレーション 共通の課題認識を持つ利害関係の異なる複数のプレイヤーを同じ目標・方向に向かって協奏する

【出典】文部科学省 平成29年(2017)版科学技術白書 第1部 むすび 今後のオープンイノベーションで目指すもの
https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11293659/www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpaa201701/detail/1388447.htm

(4)オープンイノベーション推進の参考フロー

OI推進フローと人材・組織によるマッピング



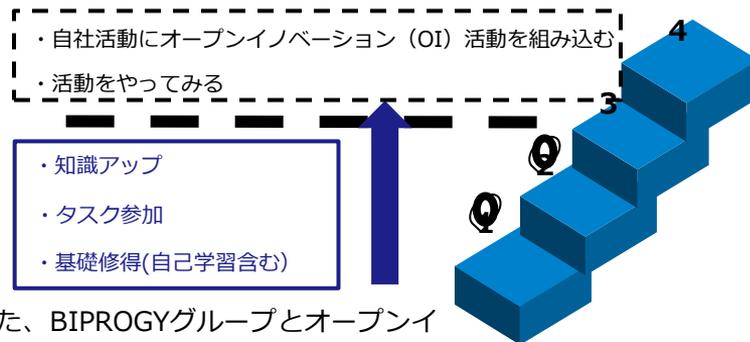
【出展・参考】2018/3/30企業のオープンイノベーション推進における人材マネジメントに関する調査報告書
 経済産業省の委託による平成29(2017)年度産業技術調査事業(株式会社野村総合研究所)
https://www.meti.go.jp/policy/tech_promotion/oi.pdf

(5)特別プログラムの目指すところ・概要

- ①オープンイノベーションの重要性は誰もが認識される中、参加者自らの体感・考動トライアルにより、これを加速していくために必要なことを考察します。

企業のミッシングピース（主に技術やサービス）をスタートアップに求めることだけでなく、企業・スタートアップ間の共創型オープンイノベーションを進めていく上での要点とは？ピッチイベントの視聴等を通じて企業内のオープンイノベーションの進め方についてスタートアップ企業等から学びます。スタートアップの起業経験者などから生の声を聴き、オープンイノベーションの世界を体験できる活動を予定。

1. 「つながろう、広げよう、身近なものやできることから、はじめてみよう！」高いハードルでなく、まずはやってみよう！
2. 参加メンバーと作り上げるプログラム！



- ①BIPROGYグループと接点をいただいている企業・団体の皆さまとその相互にて、また、BIPROGYグループとオープンイノベーションにチャレンジするための**入門・体験プログラム**です。
- ②オープンイノベーションについてのご経験はなくても、「オープンイノベーションに興味がある・取組みたい」、「スタートアップ・ベンチャーとのコラボに興味がある」、「社外とのコミュニケーションに積極的にチャレンジしたい」など、**意欲があり積極的に活動したい方**を募集しました。
- ③他社（者）との交流を主目的とした活動のため、主なタスクは現地参加（出張を伴う場合もある）を推奨していますが、チームの定例会などは、オンラインや現地参加／オンライン併用も考慮しました。
- ④2024年度は、関東、関西北陸、九州沖縄地区でご案内し、チーム編成は、**関東、関西・北陸7名で1チーム、九州・沖縄8名で1チーム**としました。(40代:4名、30代:6名、20代:5名、男性:11名、女性:4名の計15名)

(6)特別プログラム（オープンイノベーション）活動スケジュール

領域		企画			活動						総括		
活動月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
BIPROGYグループ・BIPROGY研究会共催	募集始動			<ul style="list-style-type: none"> ・BIPROGY研究会関東、関西・北陸、九州・沖縄支部幹事会での特別プログラム(OI)ご説明 ・5/15(水)特別プログラム募集開始、6/14(金)募集締切(関東、関西・北陸、九州・沖縄) ●6/27(木)九州沖縄、6/28(金)関東関西 特別プログラム始動式 									
	体感考動			<ul style="list-style-type: none"> ●基礎（始動式前後の推薦図書紹介、自己学習推奨を含む） ●7/11(木)or12(金)「大企業におけるOI文化の醸成」MorningChallenge!ビデオ視聴(録画視聴) 	<ul style="list-style-type: none"> ●8/1(木)or8/2(金)「海外スタートアップ情報」BIPROGY USA 2024年テックトレンド報告(録画視聴) ●8/29(木)「OI型の事業創出のアイデア出し」kaleidosphere(BIPROGY)事前説明・準備依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ●9/27(金)「CVC交流会」キャナルベンチャーズ・MOL PLUS(商船三井グループ)交流(東京 共通) ●10/3(木)「OI型の事業創出のアイデア出しkaleidosphere(BIPROGY)事前各社アセット紹介 ●10/31(木)-11/1(金)「大学研究と産官学連携」沖縄科学技術大学院大学(OIST)視察・スタートアップ交流(沖縄) ●(オプション)11/8(金)「OI実践企業視察見学」WORKROIDのテムザック(京都)視察見学(BIPROGY研究会関西・北陸地区支部共同、共通) ●11/14(木)「OI型の事業創出のアイデア出し」kaleidosphereニューコンピネーション創出ワークショップ(東京、共通) ●(オプション)11/15(金)「CVC交流」積水ハウスイノベーション&コミュニケーション交流会(東京) ●11/28(木)ニューコンピネーション創出フォローアップワークショップ 	<ul style="list-style-type: none"> ●2/6(木)BIPROGY研究会九州・沖縄、2/13(木)関東、2/18(火)関西・北陸地区支部グループ研究発表会で活動発表 						

- : タスク(基本リアル)
- : タスク(基本オンライン)

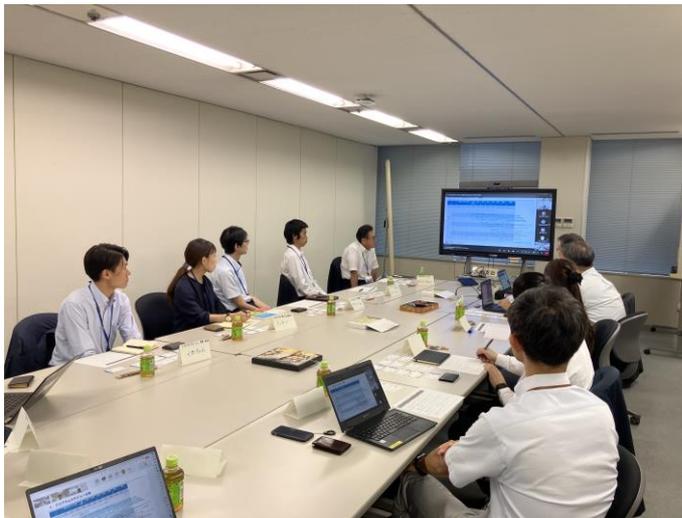
*各拠点のチームにより、タスク後の定例会はお客様参加メンバー中心にオンラインで実施

(7)特別プログラム参加企業様

地域	チーム	企業名
関東	関東関西	株式会社アトラスシー(https://www.atrasc.co.jp/)
関東	関東関西	株式会社本島ビジネスセンター(https://www.mbcnet.co.jp/)
関東	関東関西	株式会社D N P 情報システム(https://www.dnp.co.jp/group/dnp-johosystem/index.html)
関東	関東関西	東京ガス i ネット株式会社(https://www.tg-inet.co.jp/)
関東	関東関西	株式会社再春館共創ラボトリー(https://scclab.co.jp/)
関西・北陸	関東関西	因幡電機産業株式会社(https://www.inaba.co.jp/)
関西・北陸	関東関西	BIPROGY株式会社(https://www.biprogy.com/)メンバーとして参加
九州・沖縄	九州沖縄	株式会社ニシケン(https://www.r-nishiken.co.jp/)
九州・沖縄	九州沖縄	株式会社再春館製薬所(https://www.saishunkan.co.jp/)
九州・沖縄	九州沖縄	ソフトウェアビジョン株式会社(https://www.svckk.co.jp/company/)
九州・沖縄	九州沖縄	株式会社山口フィナンシャルグループ(https://www.ymfg.co.jp/)

(8)始動式(九州沖縄、 関東関西チーム)

- ①特別プログラム始動にあたって
- ②参加者自己紹介&BIPROGYグループメンバー自己紹介
- ③オープンイノベーション動向について
- ④タスクの進め方について参加者間協議



6/27九州沖縄チーム



6/28関東関西チーム

(8)①タスク：大企業におけるOI文化の醸成

企業内でのOI文化の醸成事例に触れる→BIPROGYで実施の「MorningChallenge!」ビデオ録画視聴

【人材・スキル領域】
気運醸成

プラン概要

オープンイノベーション文化を醸成するための取組についてBIPROGYの例をご紹介します。

7/11(木)15:00-17:00or7/12(金)13:00-15:00 オンライン

内容

当社社内向けにオープンイノベーション情報を月に1回提供するイベント「MorningChallenge!」を通してオープンイノベーション文化の醸成に必要なエッセンスを理解します。

- ①BIPROGY「Morning Challenge!」とは？
- ②～ 持続可能な地域社会の構築に向けて！チャレンジ白馬！～
第69回「Morning Challenge!」2023/12/19開催の録画視聴
 - ◆「HAKUBA DO」と出発式の模様
 - ◆「チャレンジ白馬」の取り組み
 - ◆ 持続可能な地域社会の構築に向けて 等



通算82回開催（2025/2時点、各回開催参加者500名超



- ①MorningChallenge!とは？
- ②『持続可能な地域社会の構築に向けて！チャレンジ白馬！』2023/12/19開催録画視聴

(8)②タスク：海外スタートアップ情報

BIPROGYグループが参画する最新情報収集活動の視聴→BIPROGY USA 2024年テックトレンド報告録画視聴

プラン概要

BIPROGYグループの北米リサーチ拠点であるBIPROGY USAのメンバーが、定期的にBIPROGYグループ社員向けに配信しているUSAウェビナーを視聴。海外を起点としたトレンド情報の最新情報の収集活動の一部をご紹介します。

8/1(木) 9:30-11:00or8/2(金)10:00-11:30 オンライン

内容

- ①BIPROGY USAの活動ご紹介
- ②『2024年テックトレンド - SXSW参加報告』
2024/4/26開催分録画視聴

BIPROGY USAウェビナー

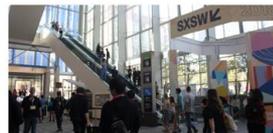
月に1回程度を目途に、BIPROGY USAメンバーが配信しているUSAウェビナー内容から、アーカイブ映像をご視聴いただけます。最新の北米トレンドを掴むことで、これから日本にも来るであろうトレンドをいち早く収集します。



SXSW (サウス・バイ・サウスウェスト)とは

- ・毎年3月に米国テキサス州オースティン市で開催される巨大イベント
- ・イノベーターやアーリーアダプターが集まるため、無名のスタートアップにとっても絶好のローンチの場となっています。
- ・かつてTwitterがSXSWをきっかけにブレイクしたり、初期のairbnbやUberもSXSWにやってきたことがあります。

【人材・スキル領域】
①気運醸成



【今回のトレンドキーワード】

- ・指数関数的な変化
- ・マルチモーダルAI
- ・AI + other technologies
- ・AIの問題点
- ・Vision Pro/スペーシャル・コンピューティング など

(8)③タスク：事業会社におけるスタートアップとの連携（CVC）

事業会社におけるスタートアップとの連携について、CVCキャピタリストから対談で、理解を深める。

プラン概要

事業会社におけるオープンイノベーションの取り組みについてCVC(Corporate Venture Capital)の事例を調査し、事業会社とスタートアップの関わり方・連携について理解を深めます。
また、スタートアップ連携の事例から事業連携のきっかけをつくる機運を醸成します。

9/27（金）15:00-17:00 17:00～交流会
BIPROGY本社(東京都江東区豊洲1-1-1)リアル・オンライン(Teams)

内容

- ①イントロダクション
- ②CVCって何だろう？

チャンネルベンチャーズ株式会社（BIPROGYグループ）
代表取締役 松岡 亮介



- ③MOL PLUS・Canal Venturesの事業紹介

- ・チャンネルベンチャーズ株式会社 代表取締役 松岡 亮介
<https://www.canal-v.com/>
- ・株式会社MOL PLUS（エムオーエル・プラス）代表者 阪本 拓也 様
<https://www.molplus.net/> * 株式会社商船三井(100%出資)



- ④推しの取り組み・スタートアップ

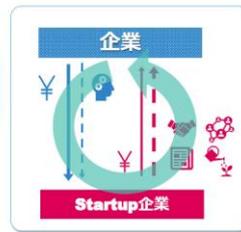
- ・チャンネルベンチャーズ株式会社 代表取締役 松岡 亮介
- ・株式会社MOL PLUS（エムオーエル・プラス）代表者 阪本 拓也 様

- ⑤クロージング



¥ 株式取得の投資や
企業ノウハウや
アセットの提供
を通じ、

スタートアップ



事業連携、人脈、
情報、人財育成
等の戦略的リターンや
投資益
等の財務的リターン
を獲得し、

※どこに重きを置くかは
企業毎の戦略



【人材・スキル領域】

- ①新しく出会ったものに気づくことができる力
- ②技術目利き力
- ③シナリオ構築
- ④リファレンスを外から得る力
- ⑤利他精神・イノベーションへの情熱
- ⑥リベラルアーツ
- ⑦事業・研究開発経験

(8)④タスク：事業会社におけるスタートアップとの連携（CVC）

積水ハウス イノベーション&コミュニケーション株式会社様交流会(オプション)

プラン概要

事業会社とスタートアップの関わり方・連携について理解を深めます。
また、スタートアップ連携の事例から事業連携のきっかけをつくる機運を醸成します。
積水ハウスグループの積水ハウス イノベーション&コミュニケーション様との交流を実施します。

11/15(金)11:00-12:00

積水ハウス イノベーション&コミュニケーション株式会社
東京都港区赤坂2丁目4-6 赤坂グリーンクロス23階
<https://www.innocom.co.jp/>

「InnoCom Square（イノコム・スクエア）」
<https://square.innocom.co.jp/>

内容

- ①ご挨拶・参加者自己紹介
 - ②当社(積水ハウスグループ)としての狙い、事業ご紹介
 - ③活動のポイント、投資方針・事例、スタートアップとの取り組みご紹介
 - ④Q&A・特別プログラム参加企業様との意見交換
- 積水ハウスイノベーション&コミュニケーション株式会社
事業プロデューサー 博士(工学) 南 裕介 様
AIビジネスチーム TL 兼 CAIO 原 起知 様

【人材・スキル領域】

- ①新しく出会ったものに気づくことができる力
- ②技術目利き力
- ③シナリオ構築
- ④リファレンスを外から得る力
- ⑤利他精神・イノベーションへの情熱
- ⑥リベラルアーツ
- ⑦事業・研究開発経験



赤坂グリーンクロス
東京都港区赤坂2丁目4-6
<https://akasaka2-office.jp/location.html>

(8)⑤タスク：OI型の事業創出のアイデア出し

- 【人材・スキル領域】
- ③シナリオ構築
 - ④リファレンスを外から得る力
 - ⑤利他精神・イノベーションへの情熱
 - ⑥リベラルアーツ
 - ⑦事業・研究開発経験

kaleidosphere

アセットの組み合わせから社会課題解決に資する事業創出を目指すコミュニティがkaleidosphereです。

OI型の事業創出を体験できるプログラムを提供

プラン概要

ワークショップ形式で、社会課題解決／社会的価値の提供という使命で共感し、それぞれが持つ多種多様なアセットを組み合わせることで、同時に経済的価値も享受できる新規事業創出プログラムを提供します。

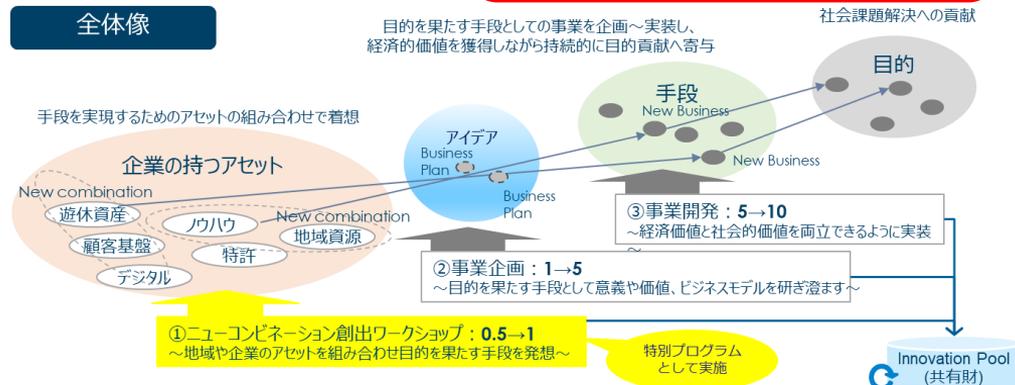
内容

ワークショップ形式でのビジネスアイデア創出



【テーマ】

地方だからこそできる子育てに役立つサービスや街の仕組みを考えよう



①8/29 (木) 15:00-16:00	①オンライン * Teams	① kaleidoの事前説明と事前課題方法の案内 ・ワークショップ全体像 ・想定スケジュール等 ・WSテーマ候補・テーマ選定 ・各社アセット調査の説明・依頼
②10/3 (木) 15:00-17:00	②オンライン * Teams	②特別プログラム参加企業の各アセット紹介 ・事前提出の各社アセットの紹介
③11/14 (木) 9:00-17:00 17:30-19:00 * 交流懇親会	③リアル ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ株式会社 (東京都港区赤坂2-14-32 赤坂2・14プラザビル4階)	③ワークショップ ・ベルリナを知ろう ・アセットの活用方法を考えよう ・ニューコンビネーションを発想しよう ・ワールドカフェでディスカッションをしよう ・アイデア投票
④11/28 (木) 9:00-12:00	④オンライン * Teams	④ワークショップフォロー(オンライン) ・アイデアの振り返り ・顧客課題の検討 ・価値提案の検討 ・圧倒的な優位性の検討 ・チーム発表

(8)⑥タスク：大学研究と産官学連携

沖縄科学技術大学院大学(OIST)視察・スタートアップ交流(沖縄)

プラン概要

世界最高水準の研究拠点であり、沖縄の技術移転と産業革新を牽引する沖縄科学技術大学院大学（OIST）への視察を行います。スタートアップ・研究技術へ触れ、交流を図ります。

10/31(木)14:00～17:30

11/1(金)9:00～10:15

沖縄科学技術大学院大学、スタートアップ交流
(沖縄県国頭郡恩納村字谷茶 1919-1)

内容

- ・ OISTへの視察
- ・ OIST発スタートアップとの交流



ダイビングやシュノーケリングで有名な恩納村の丘陵地区に広がる約200ヘクタールの亜熱帯林の中に所在



【人材・スキル領域】

- ①新しく出会ったものに気づくことができる力
- ②技術目利き力
- ③シナリオ構築
- ④リファレンスを外から得る力
- ⑤利他精神・イノベーションへの情熱
- ⑥リベラルアーツ
- ⑦事業・研究開発経験

日本政府が設立した国際的な学術拠点



60か国以上の国と地域から教職員・生徒が集まるOISTでは公用語が英語となっています。国内外の優れた研究者により世界・日本・地域に貢献する研究拠点おなっています。

国際色豊かなOIST発スタートアップ



OISTの技術・アクセラプログラム発のベンチャーが次々と誕生しています。またOIST-Lifetime Ventures Fundを組成し、スタートアップ投資も盛んに行われています。

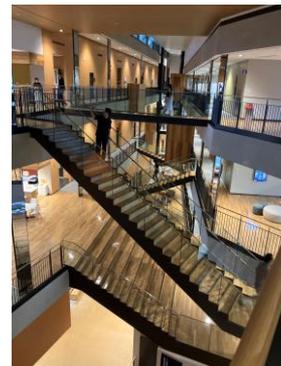
(8)⑥タスク：大学研究と産官学連携

【1日目】

沖縄科学技術大学院大学(Okinawa Institute of Science and Technology)視察・交流

- ①OISTの概要説明
- ②OIST発スタートアップ ピッチ 5社(各15分×5、質疑応答含む)
 - 1.GenomeMiner (英語)
 - 2.Aranea/hakko holdings(英語)
 - 3.Sage Sentinel (英語)
 - 4.Kwafuu Ocean
 - 5.ExSure(英語)
- ③OIST発スタートアップ交流会
- ④学内ツアー

弊社グローバル
ビジネス部
社員によるリ
アルタイム通
訳！



【2日目】

- ①OIST発スタートアップ ピッチ 3社(各15分×3、質疑応答含む)
 - 1.Circular Powder(英語)
 - 2.Recotech
 - 3.Watasumi (英語)
- ②OIST発スタートアップ交流会



(8)⑥タスク：大学研究と産官学連携 OISTでの交流先

日	会社名	URL	概要
10/31	GenomeMiner	https://www.genomeminer.ai/	微生物の遺伝子の中から、新薬等に活用可能な有用物質を生み出す原因遺伝子を特定するソフトウェアプラットフォーム。
10/31	Aranea	https://aranea.co.jp/ja/	食品残渣のアップサイクル。食品残渣を宝物に変える、独自の発酵技術「アラネア菌」の開発。アラネア菌によってタンパク質、アミノ酸、食物繊維を多く含む製品にアップサイクルする事業を展開。「世界中の食糧問題とゴミ問題に具体的な解決策を」をビジョンに掲げる。
10/31	Sage Sentinel	https://sagesentinel.com/	AIによる高齢者の転倒予防のためのソフトウェア。
10/31	Kwahuu Ocean	https://www.kwahuu.com/	イカ養殖技術の事業展開。沖縄を拠点にイカの持続的養殖を行い、環境保全と地域社会への貢献を目指す。イカを中心とした水産資源の保全と養殖技術の開発を行い、「イカを越えるイカ」を創造することで文化的価値を高めている。
10/31	ExSure	https://exsure.in/	次世代ナノ薬物デリバリープラットフォームを開発しているインドのバイオテクノロジースタートアップ。抗がん剤を疾患部分に効率的に到達させるドラッグデリバリーシステムという領域の研究開発をしている。
11/1	Circular Powder	https://circularpowder.com/	ワインからノンアルコールで抗酸化物質がたくさん含まれるパウダーを抽出し、チョコレートなどの商品開発を行っている。
11/1	Recotech	https://recotech.co.jp/	再生資源プラットフォームサービス。プラスチック資源を循環させる事業「pool (Circularity Design Tool)」を展開。「pool」は、排出されるごみをデータ化することで回収インフラを構築し、トレーサビリティの取れる循環型サプライチェーンを構築する取り組み。国内の商業施設から回収した廃プラスチックを再生させた国産100%PCR材「pool resin」を提供。「世代間責任を果たす」をミッションに、「ネイチャーポジティブな経済発展ができる社会をつくる」をビジョンに掲げる。
11/1	Watasumi	https://www.watasumi.com/	中小食品・飲料メーカーのための排水処理システム。

(8)タスク⑦(オプション) : OIコラボ実践企業視察見学 (BIPROGY研究会関西・北陸地区支部企業見学会共催)

WORKROIDのテムザック視察見学

プラン概要

株式会社テムザック

京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町689番地1

<https://www.tmsuk.co.jp/>

11/8(金)15:30-17:00

内容

OIコラボ実践企業視察見学

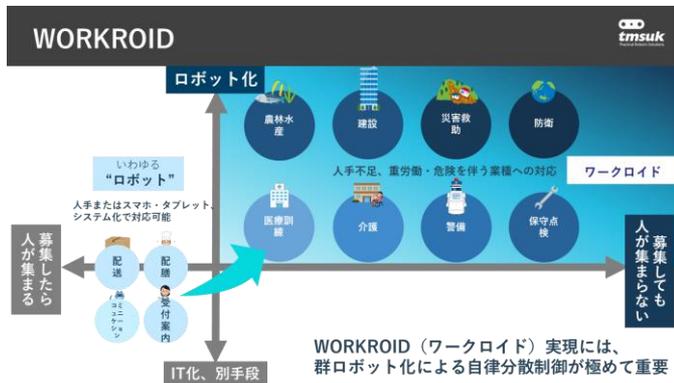
①企業概要・事業領域説明

②実機紹介

(大型のものは、福岡県宗像市ベースなので動画)

③テムザックの企業コラボレーションの方針・事例

④RODEM(TRANS-ROID)試乗



- 【人材・スキル領域】
- ②技術目利き力
- ⑥リベラルアーツ
- ⑦事業・研究開発経験

(9)参加メンバーのアンケート(部分抜粋)・到達点

OISTでの交流先との折衝、自社CVCへの紹介等実践的な活動を開始した参加者もあり。また、活動に生成AIを活用する部分もあり。

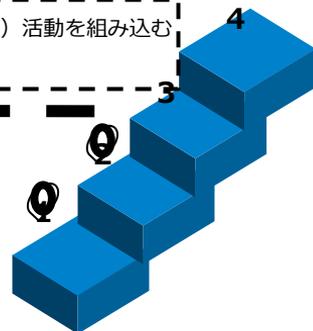
一部実践に向けて活動開始

特別プログラムの目指したところには到達

マインド・考動含め

・自社活動にオープンイノベーション(OI)活動を組み込む
・活動をやってみる

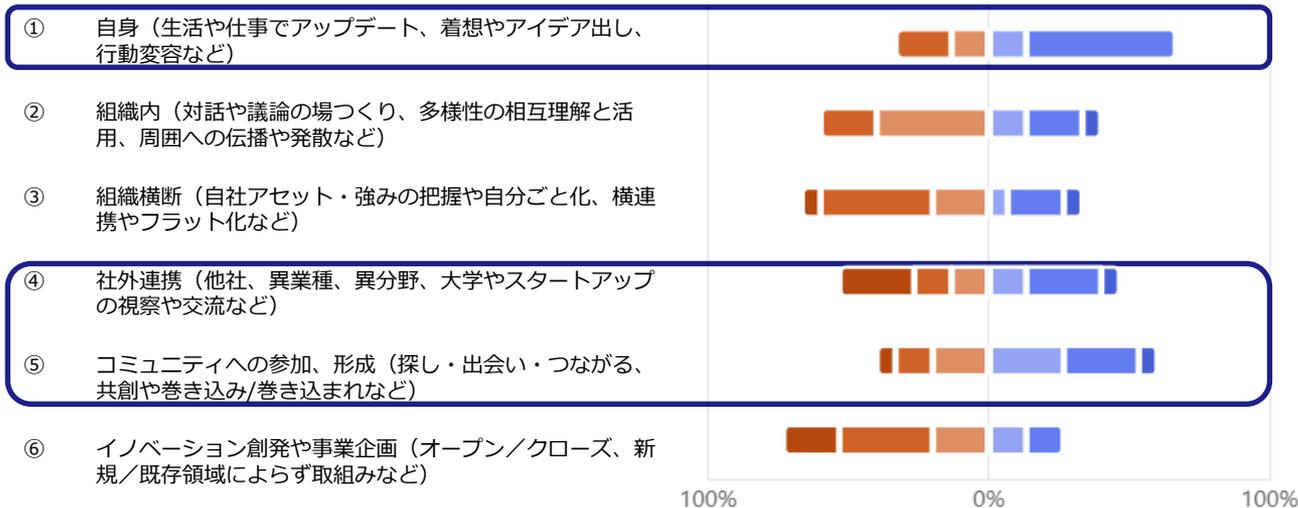
・知識アップ
・タスク参加
・基礎修得(自己学習含む)



【アンケート】より抜粋 (2024/12月末)

「オープンイノベーション体験・考察トライアル」は、どのようなことにどんな感じに作用しましたか? ご自身やビジネスでの現況をお聞かせください

● 活用し難い ● 意識のみ ● 活用すべく準備中 ● 活用し始めた ● 活用(実践)中 ● 思い迷う(不明)



【アンケート】より抜粋 (2024/12月末)

プログラム全体を通して、どの程度満足いただけましたでしょうか?





Foresight in sight